

# 寺の将来に向けしなけければならないこと

## みんなに喜ばれる 今からの寺院ラボ

Takahata Kiminori

遠藤 卓也

対論

高畑 公紀

奈良県高野山真言宗生蓮寺住職

〈未来の住職塾〉講師

お寺の行事も今までは地域の檀家さんに手伝ってもらっていましたが、これからは寺独自で僧侶を育てる必要があります

### なぜ庭園風永代供養墓を造ったか

遠藤 生蓮寺では二〇二三年に「庭園風永代供養墓」を造り、新聞にも取り上げられたそうですね。

高畑 元々、境内には古くから約八百基の墓地があり、そのうち生蓮寺の檀家は半分くらいです。残り半分は他のお寺の檀家さんです。

遠藤 「庭園風」に至るきっかけは？

高畑 実は墓地の中にもう一つ永代供養墓があります。そちらが先で、コロナ禍より前です。境内墓地の墓じまいが開始した時に、みなさんお骨を大阪の一心寺さんに持って行かれていたんですね。それなら、せっかくならば近くに納めていただきたいと思い、最初の永代供養墓を造成しました。

遠藤 最初の永代供養墓が埋まったから、新しいものを造ったのですか。

高畑 いえ、まだ埋まっておらず、墓じまいの方向けにお勧めしています。

遠藤 「庭園風」は新しいご縁の方向

けですか。

高畑 必ずしもそうではありません。

墓じまいを考えておられる方の中には、「墓じまいをしなければいけないが、したくない」という方もいます。理由は、これまでのお墓と比べた時に、永代供養墓はどうしても見劣りしてしまうからです。それならば、見劣りのしない永代供養墓を造れば良いと考えました。また、「庭園風永代供養墓」のある場所は草が伸び放題で荒れていたもので、整備してきれいにすることでお寺全体の印象もよくしたいという思いもありました。

### 永代供養墓を観光地にしたいわけ

遠藤 新聞記事では「永代供養墓を観光地にしたい」とおっしゃっていました。が、どうしてでしょうか。

高畑 永代供養墓は将来的には誰も参つてくれなくなりますよね。でも観光地にすれば誰かが参ってくれるはず。例えば高野山の奥之院、エジプトのピラミッド、インドのタージ・マハルも全部

●高畑公紀 1977(昭和52)年奈良県生まれ。筑波大学卒、京都大学大学院生命科学研究所卒。2019年に師父を継ぎ生家の高野山真言宗生蓮寺住職。蓮の植栽、研究で知られ、宗門の布教研究所員や本山布教師としても活躍。著書『五感で楽しむ蓮図鑑』他。

お墓ですが、ちゃんと観光地になっているので、年中多くの人が訪れています。

遠藤 個別埋葬の場合、普通の墓碑ではなく仏様の形になっているので、五百羅漢のような趣きもありますね。

高畑 たくさん並んでいると壮観ですよ。仏様だと知らない誰かも手をあわせてくれます。

遠藤 お骨はどこに納めるのですか。

高畑 台座の下が空洞になっています。茶袋に少量のお骨を入れていきます。

遠藤 中心には池があつて、一種のシンボリックな場所になっていますね。生蓮寺は蓮をたくさん育てているので、池の中や周辺の鉢などにたくさんの蓮が植えてあります。「蓮の樹木葬」というイメージもありますね。

高畑 私自身、蓮が大好きで蓮にまつわる様々な活動をしてきました。蓮に関する本を出版したり、YouTubeで発信をしたり、ルンビニでお釈迦様の時代の蓮の種を発掘するプロジェクトなども動



120品種250鉢もの蓮を育てる生蓮寺の新たな墓域

れた方が「ここがいい」と、永代供養墓を契約してくださることもあるのです。

**僧侶になりたい人を募集している**

遠藤 生蓮寺では僧侶になりたい人を一般から広く募集しているそうですね。

高畑 志願者に百日間の修行をしてもいいです。基本的には住み込みではなく通いで、別の仕事を持っている方がほとんどです。既に四名が僧侶になりました。

遠藤 どんな方が来られますか。

高畑 五十代の方がメイン層で、性別は女性が多いです。皆さんお仕事があるので、休める日に来てもらって、一般的な真言宗の修行プログラムをやってもらっています。

遠藤 始めたきっかけは？

高畑 苦肉の策ですね。高野山大学や高野山で修行している人が少なくなりました。自分が修行した頃と比べて三分の一くらいになっている印象です。その中でも実家がお寺であれば自坊に戻られるでしょうし、するともう全然人がいない

**大反響！** 本欄を元にした第2弾として遠藤卓也著『いまからの寺院コンセプト—誰もが行きたくなるお寺33実践集』がたちまち大好評！ ご注文は同封のFAX申込書などで

のです。募集はかけましたが、誰も来ませんでした。そうであれば僧侶になりた  
い人を探してきて、生蓮寺で養成した方  
が早いのではないかといい発想に至った  
のです。うちで修行をしてくれた一名が、  
現在は法務員となって法事や葬儀を勤め  
てくれています。

**お寺で人手不足を解消するために**

遠藤 高畑さんと同じように「法務員  
が足りない」と悩んでいるお寺が各宗派  
各地にあります。ある程度の規模だと法  
務員さんがいないとまわりません。

高畑 お寺の行事も、今までだと世話  
人という形で地域の檀家さんたちに手伝  
ってもらっていましたが、それももう厳  
しくなっています。人口が減りつつ  
あるし共働きになって、あまりお寺のこ  
とに参加できないようになってきました。  
慢性的に人不足です。

遠藤 その問題も各地で見聞します。  
高畑 だからモデルチェンジをするし  
かないのです。生蓮寺では、修行僧たち

に来てもらい行事もまわしています。

遠藤 法務に関しては一、二名の方に  
法務員として専門的に頑張ってもらい、  
他の方々は大きな法要や行事の時の助っ  
人としてご活躍していただくイメージで  
すよね。

高畑 将来的に僧侶は私含めて五名く  
らいの体制にしたいです。例えば、事務  
担当、僧侶養成担当、外の設備や植栽の  
整備担当、堂内の設備担当、みたいな形  
で役割分担してみると五名は必要です。  
今は父親もいるので三名でやっています  
が、やはりまだまだきついです。人間っ  
て疲れるので、疲れたときに人が来たら  
どうしても塩対応になってしまう。わか  
っているけど難しいです。

遠藤 ミスも多くなりますよね。

高畑 でも人が十分にいれば、ちゃん  
としっかり休んで余裕が持てるので、お  
寺の雰囲気ももっとよくなると思います。

**家族経営から会社経営のよつこ**

遠藤 これからのお寺を考える上で、

人材不足は本当に避けて通れない問題だ  
と思います。高畑さんが今なさっている  
ことは、この生蓮寺というお寺を持続さ  
せていくために本質的に大切なことです。  
高畑 家族経営から会社経営のように  
していきたいんですね。

遠藤 意識的に会社会的なあり方を模索  
されているお寺はありますが、一寺院だ  
けで一般から僧侶を募ることまでやって  
いるお寺は、他にあまり知りません。

高畑 苦肉の策ですけどね。本山から  
良い人が来てくれるなら、もちろんその  
方が楽じゃないですか。本当はそうした  
かったけど、できなかったの、しょう  
がない。せざるを得なかったんです。

遠藤 現在、若い人の中に僧侶になり  
たい人が少なくなっていたとしても、シ  
ニア層に仏教を学び僧侶として生きてい  
きたいと考える方は少なくないかもしれ  
ません。これからのお寺に必要な仕組み  
として、僧侶養成のノウハウを横展開し  
ていけたらいいですね！

「つづく」